〔様式　1〕

事 務 事 業 評 価 表

平成１４年度	主要事業計画対象の有無	無		電話	042（769）8341
担当部課名	保健福祉部	保育課	課	管理	係
事務事業名	保育園職場研修「ファンタジー研修」			事業コード	13110

1 総合計画における位置づけ

政　策　名	Ⅰ　第　6　章	彩りのある市民文化を創造します	事業開始年度
基本施策名	第　3　節	文化視点に立った行政の推進	3　年度
施　策　名	第　1　施策	文化視点に立った行政の推進	

2 実施根拠及び関連法令等

地方公務員法３９条、相模原市職員研修規程

3 事業概要

（１）事業の目的

・職員の資質の向上を図り子どもの豊かな成長と発達を援助する。
・各園が情報を交換し意見を交し合うことで、視野が広がり子どもや保護者への対応にも、新たな視点と創意工夫のヒントを得る。
・事務事業評価の対象事業については、「保育園職場研修事業」となっている。この事業は、多くの個別の研修からなっているが、保育士の資質向上を目的とした「ファンタジー研修」を選定し評価する。

（２）対象（誰、何）

保育園職員

対象数　１８名

（３）平成13年度事業の内容

研修日数：９日
期　　間：一年間
対　　象：１８人（副園長、主査、主任、保育士）
内　　容：食育について三つのテーマでグループごとに取り組む。

Ａグループ：「楽しく食べる環境」について
Ｂグループ：発達に応じた対応を
Ｃグループ：食べる意欲について
講師謝礼　：72千円

（４）総合計画･実施計画における概要

なし

（５）個別計画の概要

計　画　名				
計画年次		年度～		年度

4 評価指標

指標名	① 研修目的の明確性（子どもにより良い食生活を提供する）	② 研修受講者の満足率	③
指標式	研修のねらいが明確と回答した受講者数/全受講者数×１００	受講後の目的達成感が高かったと回答した受講者数/全受講者数×１００	
指標設定の意図	研修のねらいを受講者に明確に認識させることにより、より効果的、効率的研修をめざす。	受講後の目的達成感を高めることで、保育の専門性を高めより効果的な研修をめざす。	

5 目標と実績　〔金額単位：千円〕

		平成11年度	平成12年度	平成13年度（評価対象年度）				平成14年度
		実　績	実　績	実　績		目　標		目　標
指　標　①			90	a	89	b	100	100
指　標　②			100	c	83	d	100	100
指　標　③				e		f		
事業費	決算（予算）額		64		72		90	72
	人員・時間数		189時間		175時間		175時間	161時間
	人　件　費		790		731		672	672
	その他経費		0		0		0	0
	合　　計	0	854		803		762	744
特　定　財　源			0		0		0	0

6 個別評価

(1) 達成度･･･目標をどれだけ達成したか

評 価		
B	A：達成している　(α≧100%) B：一部達成していない(100%>α≧80%) C：達成していない　(80%>α)	α＝①、②、③の平均値 ＝ 86.1%

①	②	③
a 88.8 / b 100.0 ×100= 88.8%	c 83.3 / d 100.0 ×100= 83.3%	e / f ×100=

理由：食は幅が広く、間口を広げすぎて検討や考察するのに時間がかかってしまった。ポイントをしぼった方が効率的に検討できる。

(2) 必要性･･･時代変化に適応した事業内容か

評 価		理由：
A	A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	毎年時宜を得たテーマの設定を心掛けている。

(3) 経済性･効率性･･･費用対効果は妥当か

評 価		理由：
A	A：妥当である B：一部妥当でない C：妥当でない	年間通して同一メンバーが研修を重ね、習得した知識を日常保育の中で他の職員及び子どもたちに適用できるので費用対効果は妥当である。

(4) 事業の代替性･･･県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か

評 価		理由：
A	A：代替の可能性ない B：代替の可能性低い C：代替の可能性高い	この研修は保育園職場の活性化にもつながり、よりよい食生活を子どもに提供するための取り組みとして重要であり、今後も実施すべきものである。

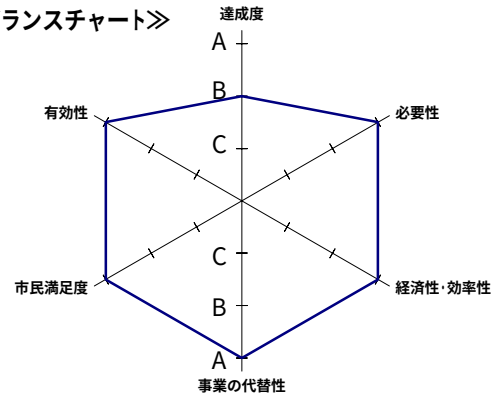
(5) 市民満足度･･･対象市民の満足は得られているか

評 価		理由：
A	A：満足できる B：一部満足できない C：満足できない	職員の意識の向上が食事環境の工夫につながり保護者にも満足は得られると考える。

(6) 有効性･･･当該事業は上位の施策を実現する上で有効か

評 価		理由：
A	A：有効である B：一部有効である C：有効でない	乳幼児期の食事は心身の健全な成長、発達を促し生涯の健康にも関係する重要な役割を担っている。

≪評価バランスチャート≫



成果向上の余地

☑ ある
☐ ない

説明：受講者の発表から見るとねらいどうりの成果がもう少しというところがあり、検討段階で十分話し合うことにより、成果も向上すると考える。

コスト改善余地

☐ ある
☑ ない

説明：講師は、業務としておこなっている講師でなく大学講師等を選び、単価を低く抑えている。現在も講師の厚意に頼っている面がありこれ以上の改善は難しい。

7 総合評価

評 価	A ★★★☆☆
他自治体の類似事業との比較	
説明	本研修は14年度で11回目となりその年度でタイムリーな、内容や課題を発見し少人数で考察しまとめて実践に結び付けるというスタイルは定着している。 特別研修として位置付けているが、今後もさらに受講者の公募により効果的な研修としてとらえ、保育内容の充実と職員の資質の向上を図っていきたい。

今後の進め方	
☑	継　続
☐	見 直 し
☐	廃　止
☐	完　了

8 二次評価における変更点